

あいさつ運動等を通して児童生徒の主体的な活動を推進する

ねがい

〈 目的 〉

正しく判断し、積極的な行動で自らの未来を切り拓く力をつけた児童生徒を育てるために、思いやりの心や表現力を育て上げることを大切にしながら、触れ合いの機会を広げるためあいさつ運動等に取り組むことにしました。

〈 内容 〉

● 児童会や生徒会によるあいさつ運動の推進

豊かな人間関係づくりに、あいさつは欠かすことができません。その具体的な行動を繰り返すことで、習慣化することができます。

児童会や生徒会が率先垂範して行動を示すことで抵抗感を減らし、あいさつを返すことで承認感・所属感を得ることができます。

校区内の全ての学校で取り組み連携しているため、保護者の協力や地域から賛同の声をいただいています。児童生徒の自己評価にも、あいさつ項目に好結果が示されています。



【あいさつキャッチボールの様子(仁小)】

● 自尊感情を高め、自己存在感をもたせる全校的な活動の場の充実

全校縦割り班や異学年交流グループをつくり、全校的な活動の場を学校生活の中に取り入れています。

集団の中での役割を自覚させて、正しく判断する体験をさせています。時には、係や指定された分担に頼らない活動を展開することで、思いやりの心や表現力を鍛えています。また、競い合うことを通して、集団で喜びを分かち合うこともあります。集団で目標を達成することで、自尊感情を高め、自己存在感を味わうことができます。

多様な個性を認め合うことは、集団生活に進んで参加しようとする意欲を育て、問題解決に力を出し合おうとする態度を育てます。人間的なつながりを深め、温かい友情を育てていく場になっています。



【毎朝のあいさつ運動の様子(仁中)】

つながり

〈 成果 〉

表現力が乏しく、友達とうまくかかわれない児童生徒も、個性として認められた実感を得ることで、集団の中で自己存在感を確認でき、集団活動がスムーズになりました。

朝、正門や玄関前のあいさつ運動に、保護者や地域の有志の参加も見られるようになり、家庭や地域へあいさつの輪が広がっています。

高まり